

船舶事故等調査報告書

平成25年6月27日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2012函第74号
事故等種類	火災
発生日時	平成24年11月21日 18時00分ごろ
発生場所	北海道稚内市 ^{こまかい} 声問埼北方沖 稚内市所在の稚内港北副防波堤東灯台から真方位045°3海里付近 (概位 北緯45°27.4′ 東経141°45.2′)
事故等調査の経過	平成24年11月22日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	貨物船 ^{ホント} ^{マル} HONTÔ MARU（カンボジア王国籍）、130トン 8728127（IMO番号）、MARITIME STAR COMPANY LTD.
乗組員等に関する情報	船長（ロシア連邦籍）、免状不詳 機関長（ロシア連邦籍）、免状不詳
死傷者等	なし
損傷	機関室内の主配電盤扉下部表面の塗装が焼損、同扉付近床のプラスチック製の ^{この} が溶解
事故等の経過	本船は、船長及び機関長ほか10人（全員ロシア連邦籍）が乗り組み、声問埼北方沖を稚内港からロシア連邦コルサコフ港へ向けて回航中、平成24年11月21日18時00分ごろ、機関室に煙が充満していることを二等航海士が発見し、消火器を使って初期消火を実施したが、消火できず、機関室を密閉して密閉消火を行った。 本船は、自力航行ができないことから、18時05分ごろ海上保安庁へ救助要請をしたが、19時30分ごろ主機が使用可能となり、自力航行を開始し、来援した巡視船に警戒されながら、21時10分ごろ稚内港に入港した。 本船は、21時15分ごろ、海上保安部及び消防署により、鎮火が確認された。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北北西、風力 6、視界 良好 海象：波高 約2.5m
その他の事項	本船は、鎮火確認後の調査によれば、機関室内にあった主配電盤の扉下部の塗装が焼け焦げており、付近の床に敷いてあったプラスチック製の ^{この} が熱で溶解していた。
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与	不明 不明

<p>気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>なし 本船は、声問埼北方沖をロシア連邦コルサコフ港へ向けて回航中、機関室から出火したものと考えられるが、出火した状況を明らかにすることはできなかった。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、夜間、本船が、声問埼北方沖をロシア連邦コルサコフ港へ向けて回航中、機関室から出火したことにより発生したものと考えられる。</p>